デーリー東北

２０１８年（平成３０年）８月２５日（土曜日）

防災教育の充実を

十勝沖地震50年 八戸でシンポ

防災教育の充実などに向け、有識者が意見を交わしたパネルディスカッション＝25日、八戸市

1968年の十勝沖地震発生から50年を迎えた記念シンポジウム「過去を見つめこれからを考える」が25日、八戸プラザホテルで開かれた。有識者による基調講演やパネルディスカッションでは自主防災の意識を高めるため、防災教育のさらなる充実を図る必要性が提起された。

八戸工業大や青森県建築士会などで組織する実行委員会（委員長・長谷川明八工大学長）の主催。県内市町村の防災担当者や八戸市内の自主防災組織の関係者ら約140人が参加した。

パネルディスカッションでは、県防災危機管理課の豊島信幸課長が「人口減少の加速に伴って公助力や共助力が低下するため、自助による地域防災の構築が必要になる」と指摘。

弘前大大学院理工学研究科の片岡俊一教授が「自助や共助、公助の意味を理解していない県民も多く、防災の適応力を上げる必要がある」と述べ、官民を挙げて防災士や防災マイスターの養成に取り組む必要性を強調した。

基調講演では片岡教授が、青森県太平洋側で今後30年間で震度5以上の地震に見舞われる可能性が高まっている―とし、将来的に（十勝沖地震と同じ）プレート境界で大規模地震が起きる可能性に言及した。

（須田山裕太）